

(評価資料4)

<p>研 究 課 題</p>	<p>4 重要な絶滅危惧植物を存続させるための技術開発に関する研究 (29-33)</p>
<p>研究目的・背景</p>	<p>「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（種の保存法）」の指定種から、繁殖技術が確立されていない種の保護や苗生産法の開発に取り組む。</p>
<p>研究計画の概要</p>	<p>絶滅の危険性が極めて高い植物を対象に、種を存続させるための技術開発を行う。種の保存法の指定を受けている絶滅危惧植物を対象に自生個体を存続させるための手法と苗生産を行うための技術の開発を行う。</p> <p>○対象種の現状調査：対象植物の調査（平成29～33年度） ○技術開発に関する研究：技術の開発試験（平成29～33年度） ○評価：実用試験・取りまとめ（平成31～33年度）</p>
<p>評価結果</p>	<p>○総合評価 A（5人）・B（1人）・C（0人） ○総合意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非常に難しい研究テーマであるが、緊急性が高く独創性を有しており、重点的に取り組むべきである。 ・他での代替が不可能であり、推進すべき事項と考える。 ・他の機関では実施が困難な研究であり、これまでの成果を活用して、研究に取り組む価値があるといえる。 ・緊急性が極めて高い研究である。リスクが高い研究であることから、確実性を高めるためには種生態学分野の研究者との共同研究が望まれる。 ・絶滅危惧植物の存続に関わる研究は緊急・重要性があり、総合評価はA評価と考える。 ・平成28年8月8日、本研究に関連する「コマクサの組織培養法」について新聞報道されたが、一連の研究が一人の研究者によって支えられているようで、手詰まりの印象を与える。今後の研究の継続と推進が図られるよう配慮されたい。
<p>センターの対応方針</p>	<p>① 研究計画のとおり実施 Ⅱ 一部見直しの上実施 Ⅲ 今後検討 Ⅳ 実施しない</p> <p>高度な培養技術力が求められる取組となるが、緊急性の高い研究として国等からの要請も強く、これまで蓄積してきた技術を活用して絶滅回避を実現させていきたい。</p> <p>なお、研究に当たっては、国等との連携により研究者相互の情報共有も図りたい。</p>